



私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「働き方改革」と職業(生き方)教育

小荷物配送の代名詞「宅急便」でおなじみの商品物流最大手ヤマト運輸が荷受けの総量規制に乗り出すと報じられています。今、物流業界で起きていることは仕事量が増えているのに損益が反転悪化する「豊作貧乏」状況であり、仕事量確保を優先するあまり、利益とそこで働く社員の労働環境を犠牲にしてきた業界体質がいよいよ限界に近づいたといえます。有名上場企業ですら現在の労働力不足の中ではその担い手確保すらままなりません。

「街に仕事を持たない若者があふれる国に比べれば、「人手不足」を嘆く経営者であふれる国の方がなんと幸せなことか。」と安易な結論を語れない事態に直面しているのが今の日本社会ではないでしょうか。

私の会社でも、「仕事依頼はたくさんあるのに、警備隊員の確保がままならない」状況に頭を悩ます日々です。今や経営者は顧客満足度を高めるだけではダメなのです。これからは従業員満足度を高められない企業は人材確保ができず、ビジネスチャンスに対応出来ないがゆえ、衰退していくのです。現在、政府が進める「働き方改革」とは実は義務教育レベルからの仕事に対する意識と人生の目的との関連づけとなる「職業(生き方)教育」の必要性にたどり着くのではないかと思います。



決して残業削減や待遇改善といった目先の「働きやすさ問題」に帰結させてはいけない改革なのです。その意味で学校教育の現場や、そこを巣立った先の職場教育の現場でも、職業を通じて人生を充実させることの意義について「気づき」を与えることが大切でしょう。若手社員には「仕事の充実があればこそ、有意義な人生が見えてくるのだよ」と繰り返し語りかけるのも私の仕事のひとつだと思います。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。
本日は、御精読ありがとうございました。

 松本 隆一郎